

すぎなみ大人塾2018 西荻コース パート2 (6回連続講座)

新しい大人、西荻で始めよー

第2回 プロジェクト・チームごとにテーマと提案先を検討する

学習支援者：学びの案内人 船尾本

平成30年10月20日(土) 午後1時30分から4時30分

於 西荻南区民集会所 第1、2集会室

第1部：講演会

『自由講座 自分らしく社会と関わる』

ゲスト：養鶏家、牛の歩みGROUP代表 窪田幸子

はじめまして窪田幸子です。よろしくお願いたします。油絵を描いて美大を出ましたのでお話しはうまくないのです。口下手なタイプ人間ですので、事業はできるのだろうかと心配されていますが、まわりの人の支えでやってこられました。私の経験話の中に、みなさんの応援となるものがあればと思い、お話をさせていただきます。私自身は、最初は養鶏家、次にギャラリー「蒼」、地域のカルチャー教室「松庵舎」とやってきました。私の目指す養鶏業というのは昔の味の卵を産む鶏を育て、この卵を媒介として地域の人と関わっていくことかなと思っています。しかし基本的にはお客さまと売る人の関係で終わってしまいます。お客さまとのコミュニケーションを限定的なことで終わりにすることは、もったいないと思って、蔵を改装してギャラリーとしました。そして展覧会やコンサートに来ていただけるよう広報を学びました。当時まだ珍しかった改修された蔵に多くの人に来てよかったかなと思っています。リピーターも来ていただきました。

つながりをさらに強くしていく、こういう方向性は、みなさんのNPO活動と近いかなと思います。今の時代に、広い社会の中にイベント情報を投げ入れるのですが、それを受けとって、この会場に来てくださるのはとても貴重なことです。伝えたいことがあっても情報発信の手段は限られています。届きたい人に届いて、その人が来てくださるのは貴重です。人を集めること自体が、とても大変です。広報の大変さを知っておりますので、こうして出会えていることにも感謝しています。

ギャラリー業をやってみて思ったのは、ギャラリーは作品を販売する場なのですが、作家を分かっていたいただきたい、その作品を知って欲しいという願いの場と考えています。社会の中に芸術を届けることは、作家の作品を作る純粋な心

だけで成り立っているわけではありません。でも創作は制作者の哲学ですから純粹でなければならず、かつ作家は自分が作ったものを、作品として売らないとなります。売るために作るのか？ 芸術家・作家は、このような状況に流されることも多い。だから難しいけれどギャラリーは真摯に創作を支えるべきです。芸術をやる人を理解しにくいと思うひともあります。家族の中で芸術を目指す方がいたら、親はきっとびっくりしますよね。いったいどうやって、芸術家として生きていくのでしょうか？と。蔵を改装してギャラリーにしたとき以来、芸術家・芸術文化の本質と商業主義等への疑問を問いかけながら事業継続してきました。そこで徐々に社会との関わりを考えることが必要だと思うようになりました。

今、ちょうど一区切りがついた状態です。作品を扱うギャラリーと、作家の想いには溝があるとわかりました。これからは、同じ芸術に関しても、商業主義に囚われない違う方向性を模索し、カルチャー事業とともに芸術家の活動を伝えていきたいと思っています。芸術を分かって来てくださる方は多くないのです。一方、作品を経済的価値で欲しいと思う人もやってくる。作品を買う、買わないを問わず、もっと作品の本質にふれて欲しいと思いカルチャー教室「松庵舎」を作りました。どのような社会でも安心できる人間関係、各自の価値観を大切に何かを形にする時間を共に過ごせる、そのような場となることを期待しています。自分らしい活動、やりたいことを一歩踏み込んで作っていく。そういう方が来てくださっていると思います。私自身がスタンスを変えずに、ずっとやってこれたことは、それが伝わってきたかなと感じています。来てくださっている方とのコミュニケーションが、私にとっての人生の宝物、財産になっています。

「養鶏」「蒼」「松庵舎」と3つの仕事をしてきましたが、参加して下さった方々と、ものごとの本質を地道に追及する活動を行っていくグループを「牛の歩みGROUP」という活動チームにしようとしています。

牛の歩みGROUP : ushinoayumigroup.com/

チームワーク、ネットワークが自然と出てきたので、これに共感する方と一緒に社会に何かを伝えようと思って作りました。私は、私自身の考えを大切にしてきましたが、自分のあり方を社会に合わせなければならないと思い、悩んだ時期もありました。やっぱり、自分らしくしないと、人生はきつくなると思います。今は自分自身の特徴で勝負していこうと思っています。実際やり始める

とぶつかることがたくさんあります。本当にいろいろありました。失敗も含めて、自分流を貫いて、困ったことがあっても解決しなければいけないのは自分自身。自分で、これでいいんだと思うことは大事なのかなと思っています。そういうものがあると、自分流の処し方に戻ってこられます。

松庵舎の中から、みなさんに役立ちそうな事例をご紹介します。65歳になる講師が、ハローワークで紹介された仕事の面接や電話面談に50戦50敗しました。ずっとプロとして活動してきた人なのに、社会にとっては役に立たないと思われたのは寂しいと。ですから、その講師は高齢者が地域の役に立てるような講座をはじめようと思いました。ところが、何をやればよいのかわかりません。みんなで話し合ううち、まちの人の取材をして、その人の人生を伝えようと決まりました。気づかないうちに身近な地域史は失われます。これが、ブログ「西荻春秋」です。松庵舎のHPから、ご覧になっていただけます。「西荻春秋」：shoan-sha.cocolog-nifty.com/nishiogishunjyu/

最初は、取材を受けていただくことが難しかったです。続けていくと、記事を見てくださったのか、断られることが少なくなりました。やっぱり、お互いに伝えたいことがあります。相手が話しやすい関係性を作ることを目指しました。またお金をいただいていないので自由です。インターネット版のグラフ誌を目指していて、目標としては、記事が本になることです。玉石混交なネットの情報の中で正確で高品質の情報を出して、蓄積になっていき、いずれは本になればと夢を持っています。

ここにいらっしゃる方は、何かを始めたいと思っている方だと思います。年齢が上になっても、意欲を持っている方は元気でいらっしゃいます。何か目標をもつことは大変なのですが、地道な活動を続けることによって、ネットワークや活動などで喜びがあると体感しています。私たちの取り組みが、みなさんのこれからに役立てばと願っています。

質問

養鶏場をやりながら、こうした新しいことをやるということは、手伝ってくれる人はいるのでしょうか。仕事をやりながら、実行するのは大変でしょう。

回答

父が手伝ってくれました。今後は家族に頼るのは難しいと思います。養鶏は休みがありません。今は、獣医大学の学生さんが手伝いに来てくださっています。とてもまじめでよい子ばかりです。こうした若い人たちには自分を信じて進んでいって欲しいと思います。

あまり、大したことは言えないのですが、法的な決まりもあって、今は100羽未満を飼育しています。（小規模養鶏）かつては直売と鶏を育てることで1日を終えてしまっていました。そうすると、1日誰ともしゃべらないですし、独り言も多くなります。将来を考え、養鶏という時間が取られる仕事をしながら、自分の好きなことをやるにはどうしたらよいのかを考えた時に、自分が行くのではなくて、こちらに来ていただくような仕事がよいのではと考え、ギャラリーを作りました。

質問

台風は大丈夫でしたか？

回答

台風やゲリラ豪雨など水にまつわる課題が増え、鶏も病気により注意が必要になったり、毎年、暑くなってきているので、タマゴを生まなくなったり小さくなったりしています。そんな中でも、卵は売り切れが多いので、予約をしていただくことが多いです。

窪田農場という形でやってきましたが、これからは牛の歩みGROUPになります。日本画家の奥村 土牛（とぎゅう）の「牛のあゆみ」という本のタイトルから名前をいただきました。牛の歩みは、本は「あゆみ」とひらがなです。寒山詩（唐の時代の誌作品）の一節「土牛、石田を耕す」を「石ころだらけの畑でも耕し続けると、やがて美田になる」と解釈したものです。私もそのようにありたいと、名前にしました。芸術家としてまっすぐ生きるというのは大変です。どこかに自分の想いが届いて欲しい、純粋な方に会いたいと願っています。そのような画家の実績を伝えていきたいという希望もあります。

学習支援者

ゲストとしてお招きするときに、農業の内容を中心にお話することをお願いしたのですが、お話を伺っている中で、地域と関わる活動のお話があり、このお話の方が、みなさんのお役に立つのではと思い、内容を変更しました。自分が当たり前だと思っていた地域がどんどん変わっていく。自分が知っていても、他の人は知らない。だからこそ、これを多くに伝えていく活動をしていращ

やる。「西荻春秋」は、文化を地域の人がつむいでいる、すばらしい活動だと思います。ありがとうございました。

第2部：『プロセスデザインを学ぶ』東京女子大学・松尾慎教授のワークショップを経て第2回目の講座

学習支援者

それでは、本日の講座説明をさせていただきたいと思います。

今回は、東京女子大において講座を行いました。すごい熱気でした。

要点：

- できるだけ各人の負担を減らす為に、プロセスを明確にすること。価値と考えを共有して、相手を大切に思っ、いろいろなことを解決する人をリーダー。
- そして、みんなで関わっていく。
- 本日配布した名刺には、裏表があります。表にはお名前とやりたいこと、裏には役割、できることが書いています。チームの中で、話し合ってみてください。

このあとは、提案したいテーマを決めて、調べたり、提案先を決めて、取材する。課題をどう解決するかを企画にします。そして、提案先を考え、決めることです。次回は提案先に伺う、話を聞くことが必要になります。何でこれやるのか、どうしてやるのかをチェックシート（仲間募集シート）を見ながら、すすめていきます。

その中で、自分のやりたいことを見つけていきます。リーダー、自分の役割、そして提案のプロジェクト名を考えてください。これをシートにまとめていくところまでが、今日の最終目標になります。

テーマの例として、自分のお子さんが障がいをお持ちの方がいらっやって、お子さまでもできるスポーツを考えていくという企画がありました。ゆるスポーツとして、健常者も障がい者もできるようなスポーツを考えました。次に、コミュニケーションができるような名札を作りました。指を指すだけで、本人がどこに行きたいかがわかるような名札です。今は、自治体が、この名札を参考にして、区政に反映したそうです。世の中をどうやったら面白くなるのか、どんな世の中が良いのかを考えてください。全てを解決する必要はありません。ひとつだけでもよいので、先方さんと話し合いながら、進めてみてください。

グループ分け（キーワード）

- 1 若者をキーワード。
もっと何かやりたい若者を応援しながら、地域と若者をつなぎたい。
- 2 多世代のしゃべり場を作りたい。
いろいろな世代の生きる力を応援したい。
- 3 朝活、夜活。
西荻窪でもう1つの新しい生き方を模索していきたい。
- 4 みんなのサードプレイス支援隊。
どなたにも居心地の良い居場所と、出番を作りたい。
- 5 子どもがキーワード。
関心は生まれる前の子ども、母親を支援したい。
- 6 夜の西荻を散歩。
西荻窪をまち歩きしながら、砂糖菓子も作っていきたい。
- 7 西荻の空き家、空き店舗、古民家を探して、使っていこう。
住みたい人をつなげていきたい。お店を出したい人に提供したい。
- 8 谷川俊太郎を広めたい。
杉並区をお好きなようなので、もっと区民が身近に感じるための方策づくりを考える。

グループ内で情報交換して、そこから他のグループに移って、情報交換してください。5分ずつです。2人以上のグループになって実施してください。

※みんなで意見交換。グループを変えながら、2つ以上のグループで意見を聞いて回った。

司会

さて、たくさんお話は出来ましたでしょうか。ここからは、実務の話になります。まずは、各グループでプロジェクト名を作ってみましょう。次に役割分担です。それと、連絡網も作ってくださいね。最後に、取り組むテーマもある程度しぼってみましょう。その際に、提案先も探してみてください。1回目と2回目で異なる名刺を作りたい人、これから作りたい人は事務局までお申し付けください。

それでは、みなさんのグループの発表をしていただきます。今日は、6つのグループにお話いただきます。

① チーム恋（ラブ）

多世代にしゃべり場を作ります。写真撮影、折り紙をしたり、地域の人、女子大学生とのコミュニケーションをします。リーダー、顧問、企画、記録、広報を決めました。グローバルな世代のために、この場を作り、地域の人々の幸せを目指しています。提案先は、社会福祉協議会や西荻南スペースに提案します。

② 西荻クラブ

商店街の活性化をめざし、まちの案内所を作ります。まちをもっと良くしたいと考えています。商店街に直接よくなるように、人を呼び込むための企画を考え、商店街に提案していきます。かつて案内所を作った人たちとも連携したいです。リーダー、記録担当を作りました。

③ 西荻朝活、夜活部 まちに帰ろう

朝やっているお店との交流をHP, 図っていきたいです。西荻窪にお客さんをお呼び込みます。コーヒーの入れ方講座などを開き、常連さん以外の方を呼んでいき、店とまちを活性化します。夜ならバーになります。また、常連さんの話を聞いて、魅力を再発見、広報をしていきたいです。提案先と役割は未定です。

④ 若者が活躍する場所をプロデュース

グループ名が決まっていません。活躍する場所を作っていくので、演奏会やスポーツ大会を実現していきます。場所を確保して、人を集めていきます。このプロジェクトを通して、若者と関わる人を元気にしていきたいです。提案先は、ゆう杉並、セシオンなどに行き、若者の調査をしていきます。

⑤ グループ子ども

社会的に困っている子どもを助けたい。具体的には、食を通して、支援していきたいです。子ども食堂に関わる、読み聞かせ、学習支援をしていきます。化学の実験をしたり、居場所を作っていきます。

⑥ 空き家グループ

グループ名はまだ決まっていません。このプロジェクト自体は、調査をすることが中心になりそうです。西荻ならではのものができたらと思っています。

学習支援者

休憩なしで、みなさま熱心に話し合っただき、ありがとうございます。窪田さんがお話しされたとおり、地域と関わるのが可能性を生みます。グループワークショップを通じて見知らぬ同士が話し合い、一緒に関わるのがまとまったのはすばらしいと思います。調査をしながら、地域に関わるのも1つですし、講座をするのも大事です。ムードメーカーがいるのも大事ですよ。みなさんがまとまってくれて、うれしいです。無理はしないでください。そして、大胆に楽しんで活動してください。今回もどうもありがとうございました。また、次回にお会いしましょう。